

〈研究ノート〉

小学校「総合的な学習の時間」の指導の充実を考える その2 ——繰り返しの学習活動が探究的な学習となるための要件——

石橋 桂子

抄 録

本稿は、「総合的な学習の時間」の本質である探究的な学習が、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の繰り返しだけでは成立しないという問題意識に立ったものである。児童の学習活動が探究的になるように導く教師の指導法の工夫とその要件を探ることを目的とする。研究方法は、指導計画の分析及びエピソードの分析である。児童が発見した課題はどのように探究的な学習として連続し発展していくのか、特に「課題の設定」と「整理・分析」に焦点を当てる。

成果として「児童の思いや願い、発見を学習課題にしたこと」「整理・分析活動を児童主体に進める指導を継続したこと」をあげ、指導法充実のための要件と結論付けたい。

キーワード：総合的な学習の時間の指導法、探究的な学習、課題の設定、整理・分析

1 はじめに

「総合的な学習の時間における学習では、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく」探究的な学習が成立することが重要であり、「探究的な学習の過程を、総合的な学習の時間の本質として捉え、中心に据える」⁽¹⁾ことが総合的な学習の時間の目標である。更に、「探究的な学習とは、日常生活や社会生活に生起する複雑な問題について、その本質を探って見極めようとする学習のことであり、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく一連の学習活動のことである。」⁽²⁾そのため、探究の過程を「課題の設定」、「情報の収集」、「整理・分析」「まとめ・表現」の単純な繰り返しであると固定的に捉えることや、探究の過程のどの段階が特に重要であると捉えることはできないと考える。

石橋（2021年）では、授業実践「お米で広がるほくらの世界」（第5学年）の授業分析を通して、総合的な学習の時間を質的に高めるための3つの提案を示した⁽³⁾。

〈提案1〉児童が納得する最善解としての課題を設定することが重要である。そのためには、児童とやりとりしながら課題を設定することが重要である。そうすることにより、児童にとっての課題は自分事になり、探究的な学習活動が継続できる。

〈提案2〉「整理・分析活動」の方法等、学習方法を児童に指導し、児童の活動が時間的に厳しいときや児童が次の活動に困ったときにアドバイスをすることが、総合的な学習の時間における重要な教師の役割と言える。

〈提案3〉授業実践の際には、育成を目指す資質・能力の観点に照らして定めた目標や評価を常に意識しながら授業を組み立てていくことが重要である。学習活動の途中に生まれた課題の解決とともに、はじめの課題に戻っていくことが重要であり、そのことにより児童が「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えること」に繋がっていく。(中略) 目標や評価の分析も細かく行うことが重要である。

本稿では、提案1の「課題の設定」提案2の「整理・分析活動」に着目した。児童の学習活動が探究的な学習として成立するための教師の指導法の工夫、探究的な学習が成立するための要件を、小学校3年生「総合的な学習の時間」の2事例を通して考えていく。

2 小学校「総合的な学習の時間」の指導法研究

(1) 本研究の目的

総合的な学習の時間の本質である探究的な学習が成立する要件や、児童の学習活動が探究的な学習になるように導く教師の指導法の工夫を探り、小学校「総合的な学習の時間」の指導法の充実を考えていく。具体的には、以下の2点に焦点を当てる。

① 探究的な学習が成立するための要件として、特に「課題の設定」に焦点を当てる。

その理由は、児童の思いや願い、発見したことから見いだした課題は、児童が自分で解決しなければならないと強く感じている課題であるため、学習活動の連続を可能にするからである。探究的な学習が成立するためには、学習活動の連続は必須である。教師と児童、児童同士のやりとりを重ね、児童が納得する最善解としての課題を設定することにより、学習活動を連続させ、発展させることができると考えるためである。

② 探究的な学習が成立するための要件として、特に「整理・分析」における学習活動の充実に焦点を当てる。その理由は、児童が新たな課題を見だし、学習活動が連続することにより探究的な学習が成立すると考えるためである。体験的な学習活動や情報収集後の思考を整理するためには、「整理・分析」の学習活動の充実が重要である。探究的な学習では、自分なりの答えを導き出すことや他者と協働して課題を解決することにより次の課題が生まれ、学習が連続していく。学習が連続するためには新たな課題の発見が重要であり、そのためには、「整理・

分析」の学習活動の充実が特に重要になると考えられるためである。

(2) 研究方法

- ① 小学校「総合的な学習の時間」第3学年「別所沼公園に行こう」の事例の指導計画と学習活動のエピソードを集め記述し、指導法の工夫や学習が探究的になる要件を探る。

事例の指導計画は、授業実践者（横田）作成の「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料」（2020年3月）を、エピソードは、授業実践者（横田）作成の実践発表資料「生活・総合のカリキュラムを構成する上で大切にしたいこと（埼玉大学教育実践フォーラム2021発表資料2021.2.20）」を参考に、筆者が分析するために加筆しながら作成した。

- ② 小学校「総合的な学習の時間」第3学年「ほくらの商店街 パワーアップ大作戦!!」の事例の指導計画と学習活動のエピソードを集め記述し、指導法の工夫や学習が探究的になる要件を探る。事例の指導計画は、授業実践者（小檜山）作成の「埼玉県小学校教育課程編成要領」（2018年3月）を、エピソードは、授業実践者（小檜山）作成の実践発表資料「探究的な学習の構造と1時間の授業の在り方 日本生活科・総合的学習教育学会第27回全国大会北海道大会発表資料」（2018.6.16）を参考に、筆者が分析するために加筆しながら作成した。

(3) 研究結果

- 1) 事例1：「第3学年「別所沼公園に行こう」学習指導要領との関わり：地域や学校の特色に応じた課題」の指導計画と分析

①事例1の概要及び資料の示し方について

事例1は、「公園にある動植物やもの、公園を利用する人々や働いている人々の思いや願いを探究課題としている。地域の公園を調べたり、管理事務所の人や利用している人に取材したりする活動を通して、公園の特色や公園に関わる人々の思いに気付き、公園の役割や特色を生かした活用方法について考えるとともに、学んだことを身近な人たちに伝えたり、自らの生活に生かしたりすることをねらいとしている⁽⁴⁾。」

指導計画の部分は、筆者が解説を加えることができるよう、学習活動のまとまりで示す資料を作成した（資料1～5）。探究の過程における「課題の設定」と「整理・分析」で、教師がどのような手立てや工夫を行っていたのかを中心に分析していく。

i [資料1] 事例1の指導計画-1

別所沼公園に行こう 単元の指導計画-1	過程	○学習活動・児童の思考 ・指導上の留意点 ○評価(評価方法)
[探究の過程] 「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現	○オリエンテーション(1) ・総合は、探究の過程が大切なんだね。 ○別所沼公園について、知っていることについて話し合う。(2) 思考・判断・表現①の評価は、「地域の公園について、疑問や好奇心から課題を作り解決に向けて自分にできることを考えている」となっている姿を「友だちの意見を受け入れながら、課題を設定しようとしている」という 具体的な姿に捉え直して評価する	・総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、学習に見直しをもつことができるようにする。 ・どんな公園であるのか話し合うことで、 別所沼公園の関心を高めるとともに分らないことが多いことに気付くことができるようにする。(★) ○思・判・表①・態②(発言、ノート)
はじめの課題設定では、方向性を導く教師の役割が重要である。(★)	○別所沼公園探検(2) ・別所沼公園はどんな公園かみんなで調べに行こう。	・話し合ったことを基に、疑問に感じたことを調査することができるようにする。 ○態③(発言、行動、ノート)
評価計画で想定した児童の姿を、学習活動に合わせてより具体的に示していく。	整 ○公園探検で集めた情報を整理する。(3)	・見付けたことを書いた付箋紙をグループで別所沼公園の地図(ワークシート)上に貼り出し、情報を可視化していく。 ○思・判・表③(発言、ワークシート)
地図を作って情報を整理していくことにより情報が可視化できる。そのことにより、新たな疑問が生まれている。	整理・表現 ○整理した情報を大きな地図上に貼り出し、全体で共有する(2) ・色々な物があるのは、分かったけど、なぜルールが張る紙が多いのかな	・グループでまとめた情報を全体で共有することで、新たな疑問や次の活動の見直しをもつことができるようにする。 ○思・判・表③・態②(発言、ワークシート、ノート)

〈課題の設定〉

授業者は、総合的な学習の時間の進め方やねらいについて確認し、児童が学習の見直しを持つことができるようにしている。そして、総合的な学習の時間には、繰り返し調べていくことが大切であると、児童が自覚できるようにしている。また、別所沼公園はどんな公園であるか話し合うことを通して関心を高めるとともに、分からないことが多い点にも気付くことができるよう、今後の活動を方向付けている。また、「どのような『もの』があるか、どのような『人』がいるか、どのような『こと』ができる公園なのか。」調べる視点も教師が示している。(これが探究課題である。)2年生生活科のまち探検で訪れたことのある公園を調べることで、児童のこれまでの生活経験や学習経験を生かした学習活動が期待できる。

〈整理・分析〉

別所沼公園での調査活動の後には、発見したことを付箋紙に書き、それを拡大した公園の地図に貼り出し、情報を可視化している。「整理・分析」の学習活動ではあるが、表現活動を通して「整理・分析」することにより、友だちの発見も確認できる。互いの発見を可視化することで、次の課題を児童自身が見つけられるよう、工夫している。

ii [資料2] 事例1の指導計画-2

<p>別所沼公園に行こう 単元の指導計画-2</p>	<p>課題 ○別所沼公園について <u>もっと調べてみたい</u>、<u>話し合ったことや情報をまとめた地図を基に、次の探検の計画を立てることができるようにする。</u> ○思・判・表①・態②(発言・ノート)</p>
<p>【探究の過程】 「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現</p>	<p>情報 ○別所沼公園探検2(4) <u>銅像がたくさんある理由を知りたいから公園事務所に行ってみよう。</u> ・繰り返し公園探検ができるように十分に時間を確保できるようにする。 ・話し合ったことを基に、公園探検が行えるように促していく。 ○知・技③・思・判・表②(行動、ノート)</p>
<p>教科学習との関連を図っている</p>	<p>整理 ○公園探検で集めた情報を整理する。(3) 思考・判断・表現③の「公園の特色を明確にするために、収集した情報を観点ごとに関連付けたり」となっている姿を「Yチャートを使い情報を関連付けたり、分類したりして新たな疑問を生み出している」という具体的な姿に捉え直して評価する。 ・Yチャートを活用し、「人」「もの」「こと」の3観点で情報を整理することで、観点ごとの情報を関連付けたり、新たな疑問に気付いたりすることができるように促す。 ○思・判・表③(発言、行動、ワークシート)</p>
<p>・公園探検に行く(体験的活動) ↓ ・情報を整理する ↓ ・情報を分析する ↓ ・次の課題が生まれる</p> <p>小さな問題解決を繰り返し行っている ＝探究的な学習の過程</p>	<p>表現 ○整理したことをカードにまとめ、友達と交流し、別所沼公園はどんな公園であるか考える。(4) ・カードは地図に貼り出したり、話し合いの中で活用したりすることができるようにする。 ・イラストなどを入れながら友達に分かりやすく伝えることができるように促す。 ・カードを別所沼公園の地図上に貼り出し情報を可視化していく。 ○知・技①・思・判・表③・態②(発言、行動、カード)</p>

〈課題の設定〉

公園で1回目の調査活動を行った後には、「銅像がたくさんある理由を知りたい。」「いろいろなものがあるのは分かったけれど、なぜルールが張り紙が多いのかな。」という児童の思いや疑問を課題として、2度目の調査活動に繋げている。疑問を解決するために、「公園事務所や市役所に行きインタビューする。」学習活動も新たに始まっている。この調査活動の際には、国語科の学習「ききたいことを考えてしつもんしよう」で身に付けた力を生かしている点も重要であることに触れておきたい。このように、総合的な学習の時間と各教科等との関連を図ることができる。

〈整理・分析〉

ここでの「整理・分析」の学習活動では、自分たちの見つけたことなどを整理するために、「考えるための技法」を使っている。この「考えるための技法」について、解説書では「考える際に必要になる情報の処理方法を、例えば『比較する』『分類する』『関連付ける』のように具体化し、技法として整理したもの⁽⁵⁾と説明し、「探究的な過程の中で学び、実際に活用することも大切であると考えられる。」⁽⁶⁾としている。

はじめに、考えるための技法の一つであるYチャートを活用して、「人」「もの」「こと」の3つの観点により公園で発見したことを整理していった。その過程で、児童は、公園の「もの」「こと」に関する観点での気付きはたくさん出てきたが、「人」に関わる観点での気付きが少ないことに気付き、「だれが公園をつくったのか。」「なぜ別所沼公園を利用しているのか。」「なぜ公園を掃除しているのか。」等、人に関わる新たな疑問を持った。

また、次の「整理・分析」の学習活動では、公園についての概念形成を図ることも目標としている。「別所沼公園がだれのために、何のためにあるのか。」「地域の人々にとってどんな公園である

のか。」という新たな課題に対して、クラゲチャートを活用して自分たちの考えを整理し、「みんなが楽しめる工夫があるから、みんなの思いがこもった公園」「貴重なものがたくさんあって長い歴史のある公園」という概念を形成できた。

iii [資料3] 事例1の指導計画-3

<p>別所沼公園に行こう 単元の指導計画-3</p>	<p>表現</p> <p>○別所沼公園のことをまとめよう(6)</p> <p>・私は、別所沼公園のよさを本にまとめて家族に伝えたいな。</p> <p><small>知識・技能②では、「公園のよさや公園に関わる人の思いについて、発言したり、別所沼公園グッズやノートでの振り返りの中で表現したりすることができている」という具体的な姿に捉え直して評価する。</small></p>	<p>・自分が調べてきたことや別所沼公園の地図を基にまとめることができるようにする。</p> <p>・表現方法の特性について話し合い、自分なりの方法でまとめることができるようにする。</p> <p>○知・技②</p> <p>○思・判・表④(発言、作品、ノート)</p>
<p>[探究の過程]</p> <p>「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現</p>	<p>課題</p> <p>○他の公園と別所沼公園を比べる。(2)</p> <p>・別所沼公園以外の公園は、どうなっているのか調べてみたいな。</p> <p>・別所沼公園とは違うよさがありそうだよね。</p>	<p>・地域の公園のことについて話し合い、他の公園について興味・関心をもてるようにする。</p> <p>・児童の振り返りやつぶやきを基に、課題を設定することができるようにする。</p> <p>○思・判・表①・態②(行動、ノート)</p>
<p>評価計画で想定した児童の姿を、学習活動に合わせてより具体的に示していく。</p> <p>一つの公園についてまとめると、他の公園についても意識が向く。比較すること、共通点や差異点を見出しながら考えることは、3年生「理科」の目標・内容である。</p>	<p>情報</p> <p>○他の公園を探検する。(12)</p> <p>・別所沼公園と他の公園には、どんな違いがあるのかな。</p> <p><small>主体的に学習に取り組む態②では、「地域の人に積極的に関わり活動している様子や別所沼公園と比較し共通点や相違点を見付けようとしている」という具体的な姿に捉え直して評価する</small></p>	<p>・夏休み中も他の公園を訪れ情報を収集する。</p> <p>・繰り返し公園探検ができるように十分に時間を確保できるようにする。</p> <p>・どんなところを見るのか考えを共有し、別所沼公園と比較することができるようにする。</p> <p>○知・技③・思・判・表②・態③(行動、ノート)</p>
<p>問題解決的な活動の繰り返しが探究的な学習の過程である。</p>	<p>整理</p> <p>○探検した公園について情報を整理する。(6)</p> <p>・付箋紙やカードを使い、情報を整理する。</p>	<p>・付箋紙やカードに整理することで情報を可視化し、友だちと交流できるようにする</p> <p>○思・判・表③・態②(発言、ワークシート、ノート)</p>

〈課題の設定〉

公園での2回の調査活動や、自分たちの調べたことや考えたことの「整理・分析」の学習活動後には、公園のよさを第三者に伝える表現活動を行っている。家族、1・2年生や幼稚園の友だちに伝える活動は、児童の更なる調査活動を誘発する。学校から近くに位置していて、身近な公園を学習の対象にしたことにより、自ら現地に行き調査することも可能になったのである。そして、児童の興味・関心は、別所沼公園以外にも広がり、「他の公園と別所沼公園を比べる。」という新たな課題の設定と学習活動に繋がっていく。

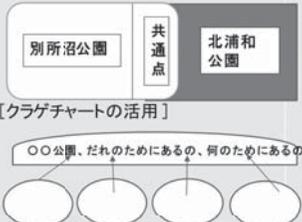
ここでは、「比較すること」「共通点や差異点を見だしながら考えること」は、3年生理科の学習との関連した目標・内容であることも押さえておきたい。

〈整理・分析〉

別所沼公園以外の公園（北浦和公園）を調査した後の「整理・分析」の学習活動では、別所沼公園を学習対象としたときの学習をそのまま生かすことができている。拡大した公園の地図に付箋紙やカードや写真を貼り付け、調べたことを整理し、情報を可視化しながら友だちと調べたことを交流することができたのである。そして、他の公園（北浦和公園）での2回目の調べ学習、その後の「整理・分析」の学習活動に繋がっていく。個人で整理した情報をもとに、グループの友だちと情報を共有しながら、「北浦和公園がどのような公園であるのか」まとめる学習活動が展開されている。

その際にも、前回の別所沼公園のときと同様に、クラゲチャートを用いて自分たちの考えを整理した。そして、北浦和公園は運動をしている人が少なく、ベンチで読書している人が多かったことなどに気付いた児童は、「リラックスできる公園」という概念を形成していた。

iv [資料4] 事例1の指導計画-4

<p>別所沼公園に行こう 単元の指導計画-4</p> <p>[探究の過程] 「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現</p> <p>「考えるための技法」を学習過程の中で利用し、情報を整理している。友だちの意見が見えるので、協働的な学習の成立に役立っている。</p> <p>ここで活用している考えるための技法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を見つけるためのベン図 ・公園の概念をクラスで作り上げるためのクラゲチャート 	<p>整理</p> <p>○他の公園と別所沼公園を比較し、共通点や相違点を見つける。(3)</p> <p>・比べて見ると、似ているところと違うところが結構あるな。</p> <p>[ベン図の活用]</p>  <p>整理</p> <p>○話し合ったことを基に、それぞれの公園のよさや課題について考える。(3)</p> <p>表現</p> <p>・北浦和公園は、別所沼公園よりもベンチの数が多いため読書や休憩に来る人が多いのかもしれないな。</p>	<p>・ベン図を活用し、別所沼公園と他の公園を比較することで、共通点や相違点を見つけ、それぞれの公園のよさや課題に気付くことができるようにする。</p> <p>○思・判・表③(発言、ワークシート、ノート)</p>  <p>・クラゲチャートを活用し、整理した情報を関連付けながらそれぞれの公園がどんな公園なのか考えることができるようにする。</p> <p>○知・技①・思・判・表③(発言、ワークシート、ノート)</p>
--	---	--

〈整理・分析〉

ここでは、「整理・分析」の学習活動が続いている。別所沼公園と北浦和公園を比較して、共通点や相違点を見つけるために、ベン図を活用する。この学習活動により、それぞれの公園のよさや利用者から見た課題などを発見することに繋がっていく。

複数の公園が点在しているという地域の特色を学習活動に生かしたことにより、活動の繰り返しが可能になる。そして、活動の連続から新たな課題も児童にとって自然な形で生まれ、探究的な学習が連続していくのである。

v [資料5] 事例1の指導計画-5

<p>別所沼公園に行こう 単元の指導計画-5</p> <p>【探究の過程】 「課題」:課題の設定 「情報」:情報の収集 「整理」:整理・分析 「表現」:まとめ・表現</p> <p>公園探検だけでなく、公園に関わる人に繰り返し出会う活動を組み入れている。</p> <p>表現方法も相手を意識して、相手を替えながら、繰り返し行っている。</p> <p>70時間の単元のため、他教科・領域等との関連も図りながら、ダイナミックに学習を展開している。</p>	<p>課題</p> <p>○地域の公園のよさや課題をいろいろな方に伝えよう。(2)</p> <p>・それぞれの公園のよさや課題を知ってもらいたいな。 ・公園の特色が分かって使うと前よりも楽しく利用できるね。</p>	<p>・相手意識や目的意識を明確にするために、伝える対象は誰なのか、何のために紹介するのか話し合うようにする。 ・伝えたい公園を選び、まとめていく。 ○思・判・表①・態①(発言・ノート)</p>
	<p>情報</p> <p>○伝えたい公園を探検し、情報を収集する。(2)</p> <p>・公園をどのように利用して欲しいのか管理事務所の人たちにもう一度聞いてみたいな。</p>	<p>・探検の計画は、対象や目的に合わせて探検することができるように促していく。 ・計画したことを基に、探検を行う。 ○思・判・表②・態③(発言・行動・ノート)</p>
	<p>整理</p> <p>○収集した情報を基に、自分たちの紹介する公園のよさや課題を整理する。(2)</p> <p>・僕は、公園をきれいに使ってほしいから別所沼公園の使い方やルールについてまとめていきたいな。</p>	<p>・ピラミッドチャートを活用し、どんなことを紹介するのか取捨選択することができるようにする ○知・技①・思・判・表③(発言、ワークシート)</p>
	<p>表現</p> <p>○本やチラシ等の表現方法を選択し、まとめたものを基に紹介する。(7)</p> <p>思考・判断・表現では、「家族や学校の人々に分かりやすく伝えられるように、表現方法を工夫したり、自分の公園に対する思いや考えを工夫して表現したりしてまとめている」という具体的な姿に促して評価する。</p>	<p>・表現方法の特性について話し合い、伝える対象や目的に合った表現方法を選択することができるようにする。 ・伝える対象や内容にあった表現方法を選択することができるようにする。 ○知・技②・思・判・表④(発言、行動、カード)</p>
<p>表現</p> <p>○これまでの学習を振り返る。(2)</p>	<p>評価計画で想定した児童の姿を、学習活動に合わせてより具体的に示していく。</p> <p>・掲示物や写真等を基に、1年間の学習を振り返ることができるようにする ・学習したことをこれからの生活にどのように生かしていきたいの考えていく。 ○知・技②・態①(発言、ノート)</p>	

〈課題の設定〉

二つの公園の比較ができた児童は、更に地域の他の公園にも目を向けていく。

ここでの「公園のよさや特徴を身近な人に伝えるという相手を決めて伝える活動」は、別所沼公園での調査活動後に行った表現活動と同様である。このような「まとめ・表現」の学習を課題にしながら活動を連続させることも、児童の意欲を高め、目的意識を明確にした調査活動を繰り返すことに繋がり、探究的な学習が成立する要件になる。

〈整理・分析〉

ここでの「整理・分析」の学習活動では、身近な人に伝えたい内容を決める際にピラミッドチャートを活用している。自分たちが公園について調べた情報を取捨選択し、優先順位を付けるためである。情報の取捨選択は、伝える相手や目的によっても異なってくるので、有効な整理・分析のためにピラミッドチャートを活用したのである。

単元最後の「まとめ・表現」の学習活動では、公園の管理事務所に児童が作成したパンフレット等を置くことを許可していただき、公園利用者に向けての情報発信を行った。この活動を通して、児童は「別所沼公園を利用する小さい子とそのお母さんに読んで欲しいから、もっと絵を多くしよう。」「地図を使うとどこに何があるか分かりやすいね。」「公園のクイズを書くと、興味を持ってもらえるかもしれない。」という思いや考えを持つようになり、公園のパンフレットなどをつくる学習活動が更に充実していった。

②事例1において探究的な学習が成立したと考えられる要件

- i 児童の思いや願いを課題として設定し学習活動を繋げていくことで、探究的な学習が成立して

いた。つまり、児童の思いや願いから設定した課題でなければ児童が自ら進める学習活動にはならず、連続していかない。探究的な学習の成立に重要な要件である。

- ii 児童は、情報を「整理・分析」することで新たな課題を見だし、自ら学習活動を連続させていたと言える。一方で教師は、他教科の学習を生かす指導、評価の視点の具体化、「整理・分析」の方法の提示、意欲を高める表現活動への導き等により、探究的な学習を成立させる支援を行っていたと言える。これらのことも探究的な学習が成立する重要な要件である。
- iii 事例1では、「考えるための技法」を効果的に活用している。このことにより、児童が学び方を学び、学習対象が変わったときにも自分たちで学習活動を進めることができている。「考えるための技法」は、情報を整理・分析し、新たな課題の設定や新たな学習活動に繋げる際に有効であり、探究的な学習を成立させる要件の一手法と言える。
- iv 事例1では、目標の設定と目標を実現するにふさわしい探究課題の設定が明確である。更に、公園にある動植物やもの、公園を利用する人々や働いている人々の思いや願いを探究課題としているために、公園に関わりのある「もの」「人」「こと」を児童が捉えやすく、思いや願いをもとに関わりを深めていくことが可能である。このような適切な探究課題の設定が、探究的な学習を成立させるための要件として重要である。
- v 事例1の探究課題の中心である「公園」は、授業中においても児童の家庭生活の中でも、繰り返し関わる事が可能な場所である。また、公園は、1・2年生の生活科の学習で関わったことがあり馴染みのある場所である。更に、地域に複数以上の大きな公園や小さな公園が点在していることも、繰り返しの学習活動を可能にする。繰り返し関わることのできる場所を、学習材として生かすことが探究的な学習を成立させる要件である。

2) 事例2：単元名「ぼくらの商店街 パワーアップ大作戦!!」(第3学年4月～3月 70時間)の指導計画と分析

①事例2の概要及び教師の思いと探究の過程

事例2では、「学校の正門から駅までの500mの間にある商店街との関わりを探究課題としている。自分の住んでいるまちにある商店街との関わりを通して、地元のすばらしさを実感し、地域に対する愛着がわくことを願い、本単元を設定している。」⁽⁷⁾ 教師は、1年間同じテーマで学習を進めていくためには、課題を児童自身が見つかる必要があると考えた。そして、課題を見いだすまでの試行錯誤や、活動後の話合いに重点を置いた単元構成を工夫し、児童の学びが探究的な学習として成立するようにした。

②事例2の指導計画の概要

この事例2の指導計画を、児童の見つけた課題という視点から大きく3つの学習過程で捉え直し、記述する。

過程1：[自分たちは学校の近くにある商店街について、本当に知っていると言えるのか。]

過程2：[店の人の思いや願いと自分たちの声を地域の人に伝え、商店街をパワーアップしたい。]

過程3：[自分たちの行った商店街パワーアップ作戦は効果があったのか。]

以下に、「課題の設定」「整理・分析」に焦点を当ててエピソードをまとめていく。

i 学習過程1 [学校の近くにある商店街のことを、本当に知っていると言えるのか。]

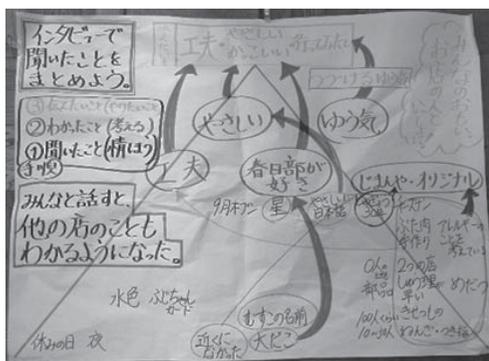
〈課題の設定〉

ここでは、「2年生のときにまち探検で訪れていた商店街（50年程続く店56店舗）を、自分たちは本当に知っていると言えるのか。」というところから単元の学習がスタートしている。また、3年生は総合的な学習の時間のスタートでもあるため、「自分で課題や活動内容を決めて、自分で課題を解決する学習の時間であること。」というねらいを押さえるとともに、「商店街のことを知っているにしても、分からないこともある。」という、新たな疑問にも気付くことができるよう、話し合いを行っている。そのため、学習過程1における課題は、児童の解決したい課題になり、商店街の調査活動を繰り返す際の課題意識を連続させることにも繋がっている。

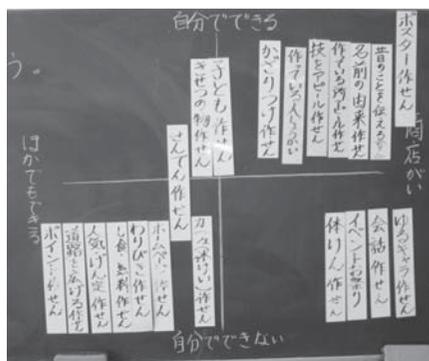
更に、商店街での調査活動は、自分や自分たちだけが新たに発見したことを確認し共有することに留まらず、地域の人が商店街を利用する頻度を調べたり、調査したことを商店街の会長さんに伝えたりする活動に広がっていく。

〈整理・分析〉

学習過程1での重要な整理・分析の学習活動は、話し合いを通して今後の活動の方向性を見いだしたところにある。話し合いの際には、教師が、児童の気付きや意見を「聞いたこと」「分かったこと」「友だちに伝えたいこと」というピラミッドチャートに分類しながら板書し、可視化していった。そのことにより、「商店街の人々の工夫や商店を続けようとする勇気をお店の人と一緒に伝えていきたい。」という次の活動の方向性が明確化したのである。



[資料6] 児童との話し合いから教師が作成したピラミッドチャート



[資料7] 座標軸で自分たちができるパワーアップ作戦を見いだす

(小楢山 2018年6月)⁽⁸⁾

- ii 学習過程2 [店の人の思いや願いと自分たちの声を地域の人に伝え、商店街をパワーアップしたい。]

〈課題の設定〉

「商店街の人々の工夫や商店を続けようとする勇気をお店の人と一緒に伝えていきたい。」という次の活動の方向性は、「ぼくらの商店街 パワーアップ大作戦—賑やかな商店街を取り戻そう—」という、児童と商店街の人たちの思いや願いが込められた課題の設定に繋がっていく。そして、「店の人がしている集客の工夫」を調査する学習活動が展開されていく。

〈整理・分析〉

ここでは、賑やかな商店街を取り戻すための工夫を児童も考える学習活動が展開していく。しかしながら、児童は「店の人に相談しないとできないことがある。」ということにも気付いていく。「商店街ならではの方法」「自分たちでできる方法」を軸に整理していく過程で、この気付きは明確化していった。そして、商店街の人に相談しながら、自分たちができる商店街のパワーアップ作戦（旗づくり）へと学習活動が進んでいくことになる。

- iii 学習過程3：[自分たちの行った商店街パワーアップ作戦は効果があったのか。]

〈課題の設定〉

児童の「商店街パワーアップ作戦」は、「商店街にあるそれぞれの店の旗をつくり飾ってもらう作戦」に具体化していく。自分たちで行った座標軸による整理・分析の学習活動だけでなく、店の人との相談や店の利用者でもある保護者の意見も取り入れながら、児童は旗をつくり、それぞれの店に旗を届け、飾っていただけるよう依頼するのである。

この学習過程3における課題は、自分たちの行った旗づくりの効果を確かめる学習活動に繋がりが発展していく。児童は、「客が増えたか」「旗の効果はあったか」などを評価するアンケートを考え、店の人へ届ける。そこで、店の人とたくさん会話をしてきたものの、その会話から客が増えていないことを感じ取る。数日後には、アンケート結果を分析しながら、自分たちが行った活動の意味を考え直すことになる。

〈整理・分析〉

アンケート結果の分析として、「客の数が増えたか。」という店の人の印象をグラフに表した。ここからは、客の数は増えていないことが掴めた。しかしながら、店の人がアンケートに記入した言葉に着目すると、「旗があることにより、客との会話が増えた。」「店員の気持ちが明るくなった。」ということが発見できた。また、「店の前を通ると、店の人と児童が手を振ったりあいさつしたりする姿が見られ、商店街の雰囲気明るくなった。」「店の人と児童の関わる姿を見て、地域の人がよい印象を持っている。」「商店街に行ってみようという声を聞く。」という店の人の声を直接伺うこともできた。

児童は、自分たちの活動を店の人から意味付け、価値付けていただくことができた。

③事例2において探究的な学習が成立したと考えられる要件

- i 児童の思いや願いを課題に繋げるために、教師は話し合いを大事にしていた。単元開始時には教師が課題を投げかけ、その後は話し合いの中で児童が決定していった。商店街の調査活動を連続するためには、探究的な学習の過程における「課題の設定」を適切に行うことが重要である。
- ii 「自分の住んでいるまちにある商店街との関わりを通して、地元のすばらしさを実感し、地域に対する愛着がわくことを願い、本単元を設定している。」ということであったが、学習の始まりは、何となくスタートしている。しかし、様々な活動と活動の前後に話し合いなどを入れながら、「自分は、自分たちは、何のために、何をするのか。」ということ意識するようになり、児童一人一人が学習課題を自分のこととして捉え取り組むことで、探究的な学習が進んでいった。「情報の収集」の後の「整理・分析」の学習活動で十分な時間をとっていた点にも注目したい。目的を持って情報の収集を行っても、その内容は多種多様で量も多いため、「整理・分析」の学習活動を行うことで、重視すべき事柄や課題の解決に近づく考えなどが見えてくる。
- iii 児童が新たな課題を見だし、学習活動が連続することにより、探究的な学習が成立する。教師はそのために、話し合い活動や整理・分析の学習活動を丁寧に行っていた。つまり、探究的な学習の過程における「整理・分析」の学習活動を適切に行うことが重要であると言える。
- iv 事例2でも、「考えるための技法」を効果的に活用している。「考えるための技法」は、情報を整理・分析し、新たな課題の設定や学習活動に繋げる際に活用できる。
- v 事例2でも、目標の設定と目標を実現するにふさわしい探究課題の設定が明確である。しかしながら、大規模商店が近くにできた地域にある昔からの小さな商店街の活性化は、現代の社会的な課題でもあり、児童だけでは解決できない。また、学校の学習効果を期待できる場所も僅かであろう。学校や地域の特色を生かして取り組むことのできる探究課題として「商店街との関わり」を設定できそうな学校も多いと予想されるが、「商店街の人や地域の人と児童が協働して、地域のためにできること」等を探究課題として設定し、地域経済に関わる内容には踏み込まない学習内容を検討していくとよいのではないだろうか。

(4) 小学校「総合的な学習の時間」の指導の工夫・改善、充実を考える

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編の「改訂の趣旨」で述べられている課題を2点にまとめてみた。そして、今回取り上げた2事例の中から課題解決の方策を探ることにより、指導法の工夫・改善、充実を考えていく。

〔課題1〕：「総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科等との関連を明らかにする⁽⁹⁾。」

事例1では、「公園の特色や公園に関わる人々の思いに気付くこと」「公園の役割や特色を生かした活用方法を考えること」「学んだことを、身近な人たちに伝えたり自らの生活に生かそうとしたりすること」をねらいとしている。

事例2では、「商店街の店員や客の行動や思いに気付くこと」「商店街の課題を解決するための方法を考えること」「調べたことや学んだことを、今後の生活に生かそうとすること」をねらいとしている。

二つの事例とも、具体的な児童の姿がイメージできるねらいが設定できている。そうすることにより、育成を目指す資質・能力も明確になっている。

更に、各教科等との関連についても考えてみたい。

二つの事例に共通する関連は、国語科「聞くこと・話すこと」の領域の学習「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げる。」を意識していることである。国語科での学習を生かしてインタビューなどを行ったり、総合的な学習の時間で人との関わりを通して伝え合う力を高めたりすることができるのである。

また、事例1では、二つの公園を比較する学習活動が組まれている。この学習は、理科の目標「差異点や共通点をもとに、問題を見いだす力を養う。」ことと一致している。

更に、事例2では、アンケート調査の結果を表やグラフに表している。この学習は、算数の目標「身の回りの事象をデータの特徴に注目して捉え、簡潔に表現したり適切に判断したりする力を養う。」ことと一致している。

このように、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付けていくことで、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力が育成できるものと考えられる。なぜなら、総合的な学習の時間においては、よりよく課題を解決する過程において自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成するのではあるが、「課題についての一定の知識や、活動を支える一定の技能がなければ課題は解決に向かわない。『考えるための技法』や情報活用能力、問題発見・解決能力を持ち合わせていなければ、探究的なプロセスは進まない」⁽¹⁰⁾ からである。この双方向的な関係を教師が意識しておくことにより、総合的な学習の時間の探究的な学習が充実していく。

[課題2] 探究のプロセスの中でも「整理・分析」、「まとめ・表現」に対する取組が十分ではない⁽¹¹⁾。

「整理・分析」の学習活動の充実を図るための手立てや工夫について、取り上げた2事例で述べてきた。話し合い活動では、教師がコーディネーター役として児童の思いや考えを板書したり、教師が「整理・分析」の学習活動を進めるための視点を与えたり、「考えるための技法」を活用したりしている。児童主体の「整理・分析」活動を進めることができるよう、教師が徐々に話し合いのコーディネーター役を児童に譲っていったのである。

「まとめ・表現」においては、「表現活動が次の課題を見いだすことに繋がったり、自己の生き方を考えたり自己の成長を自覚したりすることに繋がるのが重要である。」と押さえておきたい。2事例とも、児童は総合的な学習の時間の学び方を、他の教科等の学習に生かそうとしている。また、自分に対する自信を深めたりこれからの生活での目標を持ったりしているのである。(資料8・9より)

探究のプロセスを通じた一人一人の資質・能力の向上を明らかに見取することができる。

[資料8] 単元の学習が終了時に書いた児童の振り返りから (小檜山 2018年)⁽¹²⁾

児童Aの振り返りの一部(事例2より)

「ぼくは、ぜんぜん考える力がありませんでした。でも、みんなのおかげでそれが身に付きました。考える力が付いたから、振り返りカードや発表にその力を使っています。その力は便利です。これからもその力をいかしていきます。」

[資料9] 単元の学習が終了時に書いた児童の振り返りから (横田 2021年)⁽¹³⁾

児童Bの振り返りの一部(事例1より)

「公園のもの一つ一つのひみつをくわしく調べること、分かりやすくまとめることに、他の授業がいかされていました。(理科のかんさつ、社会のたんけんの仕方、地図の書き方、国語の文の作り方、算数の表のかきかた)
他の公園もくわしく調べたい。(何かひみつがありそうだから)」

3 終わりに

今回取り上げた2事例における探究的な学習から、

- ・児童の思いや願い、解決したい疑問などが課題となっていたこと
- ・児童が収集した情報を「整理・分析」して次の課題に繋げるために、「どのように学習を進めていきたいのか。」と教師が問いかけ、児童の思いや願いを引き出しながら「考えるための技法」を提案したり、学習の進め方を指導したり、児童が自ら学習を進めた際には見守ったりするなど、様々な手立てを用いて支援していたこと

の2点が明らかにできた。探究的な学習が成立するための要件として、「課題の設定」と「整理・分析」の重要性を導くエピソードが得られたと言ってよい。

また、2事例の実践からは、探究的な学習の「整理・分析」と「まとめ・表現」の充実により、よりよく問題が解決できる児童の姿が見られた。

今後とも、総合的な学習の時間の指導法研究においては、児童の姿をもとに、実践の事実とそこで起きていた出来事を詳細に記述し、解釈していきたい。そのために、様々な事例を読み解く中で研究を深めるとともに、児童や実践する教師と同じ場において探究的な学習の過程を共有しながら、児童の学習活動が探究的になるためのポイントや総合的な学習の時間の学習活動を質的に高めるた

めの方策を探る研究を推進していきたいと考える。

更なる今後の課題として、人と直接関わるのが難しいコロナ禍においても、積極的に探究的な学習を推進し、総合的な学習の時間の充実を図ることの重要性を指摘したい。一人一台のタブレット端末などが児童の手元にある状況の中、それを積極的に活用して様々な人と関わったり、効果的な活用で「整理・分析」の学習活動を行ったりする工夫が重要となる。

付 記

本稿をまとめるにあたり、事例1 授業実践者の埼玉大学教育学部附属小学校 横田典久先生並びに事例2 授業実践者の現三郷市立丹後小学校（前春日部市立桜川小学校）小檜山佳代子教頭先生に多大なるご協力をいただきました。深く感謝しお礼申し上げます。

引用文献

- (1) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 9.
- (2) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 111.
- (3) 石橋桂子「小学校『総合的な学習の時間』の指導法の充実を考える—単元の指導計画の分析と実践の分析から実践化へのポイントを探る—」聖学院大学論叢第34巻第1号（2021）p. 143.
- (4) 埼玉県教育委員会「埼玉県小学校教育課程指導・評価資料令和2年3月」p.p. 289-291.
- (5) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 50.
- (6) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 83.
- (7) 埼玉県教育委員会「埼玉県小学校教育課程編成要領 平成30年3月」p.p. 195-197.
- (8) 小檜山佳代子「探究的な学習の構造と1時間の授業の在り方 日本生活科・総合的学習教育学会第27回全国大会北海道大会発表資料」2018.6.16
- (9) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 6.
- (10) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 12.
- (11) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編」p. 6.
- (12) 小檜山佳代子「探究的な学習の構造と1時間の授業の在り方 日本生活科・総合的学習教育学会第27回全国大会北海道大会発表資料」（2018.6.16）
- (13) 横田典久「生活・総合のカリキュラムを構成する上で大切にしたいこと 埼玉大学教育実践フォーラム2021 発表資料」（2021.2.20）

Considering Comprehensive Instruction in Elementary School, Part 2: Requirements for repetitive leaning activities to be exploratory learning

Keiko ISHIBASHI

Abstract

This paper is based on the awareness of the problem that exploratory learning, which is the essence of comprehensive learning time, will not be possible only by repeating “setting tasks,” “collecting information,” “organizing/analyzing,” and “summarizing/expressing.” The purpose is to explore the ingenuity and requirements of teachers’ teaching methods that guide children’s learning activities to be exploratory. The research method is the analysis of the teaching plan and episode. We will focus on “setting tasks” and “organizing/analyzing” how the tasks discovered by children will continue to develop as exploratory learning.

Consequently, I would like to conclude that citing “children’s thoughts, wishes, and discoveries as issues” and “continuing guidance to promote organizing and analysis activities mainly by children” is a requirement for enhancing the teaching method.

Key words: How to teach comprehensive study time, Inquiry learning, Assignment settings, Organize and analyze